

社会学部 地域社会学科

学科開設15年目を経て、新たな挑戦！

現場から学び、課題を発見し、世の中にはたらきかける人を育てる 2コース制の導入開始

地域社会学科は変わります！ 地域社会学科は現場で学び、社会を知り、地域の魅力を発信するために、入学時から「地域・ひとづくりコース」と「観光・まちづくりコース」の2つに分かれて、それぞれのコースで学びを深めていきます。

地域社会学科の目標 地域社会学科では現場での学びからさまざまな課題を発見し、世の中にはたらきかけることができる人材を育成します。問題解決力と共感力を養うカリキュラムで、豊かな教養を基礎とした幅広い視野で地域を支える担い手を育みます。地域資源を発掘、発信しつつ、魅力あふれるまちを創造する地域の応援団、担い手を育てて送り出すことを目指します。

学びの特色 入学後から2つのコースに分かれて学ぶ独自のカリキュラムを用意。地域社会のさまざまな課題解決に対応できる多様な分野の教員が多数在籍。1年次からの少人数ゼミで学生一人ひとりの学びをきめ細かく支援。地域社会をより理解するため、観る・聴く・話す・体験するなどの現場での学び（フィールドワーク・インターンシップ・ボランティア）を重視。



テーマ 江戸東京の文化
若者と都市・農村交流 など



テーマ エコツーリズムの利活用
ゴミ問題と市民参加 など



テーマ ポップカルチャーと現代社会
若者とイベント空間 など

1年次

基礎を学んだあと、テーマを設定したり、学外でインタビューをしたり、実践と座学の反復学習でフィールドワークの流れを体験。

2年次

各教員の専門分野におけるフィールドワークを体験し、さまざまな分野への見聞を広めます。少人数の演習で応用力を磨きます。

3・4年次

3年次から本格的なゼミを開始。フィールドワークを実施し、データの収集や分析技術を磨きます。4年次には卒業論文を仕上げます。



テーマ テーマパークのマネジメント
訪日観光客の行動パターン など



テーマ 地域社会における多文化共生
オリンピックと政治 など



テーマ 地域貢献とボランティア
地域イベントとにぎわい など

皆さんの疑問にお答えします

Q 入学前にコースを変更することはできますか。

A 出願後はコースの変更はできません。しかし、入学後にコースを変更する際は所定の手続きと審査が必要です。

Q コースが決まると他のコースの科目は取れないのですか。

A 一部の必修科目を除いて、コースをまたいで自由に履修することができます。資格取得を目指す場合は、コースをまたいで科目を履修することになります。

Q 資格を取る場合、どちらのコースが有利などありますか。

A どのコースでも資格取得や検定受験をすることができます。「地域・ひとづくりコース」は教職や学芸員をめざす学生、「観光・まちづくりコース」では観光や旅行関係の資格取得を目指す学生の皆さんを応援しています。

Q 「座学と実践の反復学習」「フィールドワークの重視」とありますが、どのようなことをしますか。

A 大学の教室で受ける講義の座学、座学で学んだことを現場に赴いて、観たり、聴いたり、体験したりしながら地域社会の実情を知ることが実践です。大学での学びと、フィールドワークを通じて、今何が問題なのか、解決するにはどうしたら良いか、特徴は何かなどを探求する学びのスタイルです。先輩たちの卒業論文やゼミ活動を参照すると、理解が深まります。

Q 「社会情報学科」と「地域社会学科」の違いは何ですか。

A 社会情報学科では、衣食住、マーケティング、ソーシャルデザインなど生活者の視点から社会や経済に関わる分野を学びます。地域社会学科では、社会学、歴史学、地理学、民俗学、教育学、博物館学、観光学、政治学、都市工学、文化人類学など人文・社会科学系の教員が、これらの学問分野から地域社会のさまざまな課題を発見し、解決していく力を学びます。

Q ゼミとは何ですか。

A 特定のテーマについて少人数で学ぶ授業のことです。とくに3・4年生のゼミは1人の教員に数名の学生が一緒になって、専門分野に関わるテーマで研究を進めます。フィールドワークなどを体験しながらコミュニケーション能力を高め、最後に大学4年間の総仕上げとなる卒業論文を書き上げていく拠点となります。

Q 卒業生はどんなところに就職していますか。

A ここ数年、90%以上の就職率です。就職する業界は、小売業・販売業、サービス業が大半ですが、ホテル、旅行、ブライダル、アパレルをはじめ、不動産、自動車販売、鉄道やバスなどの交通運輸に携わる人もいます。また県庁や都庁の地方公務員や高校・中学の教員もいます。1年次からキャリア教育に力を入れていること、フィールドワークや地域連携プロジェクトなどを通じて、コミュニケーション能力が高いことが、企業の方から評価を得ています。